

2022年4月25日 全7頁

新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2022/4/25号）

個社データ・業界統計・POS データで足元の消費動向を先取り¹

経済調査部 エコノミスト 中村 華奈子
エコノミスト 鈴木 雄大郎

[要約]

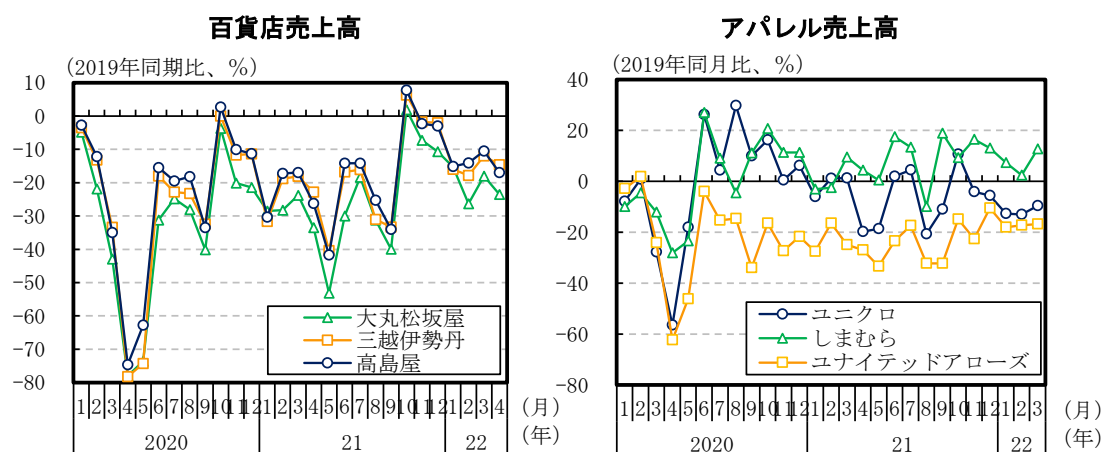
- 2022年3月の消費は2月から緩やかに回復したとみられる。3月6日をもって13県でまん延防止等重点措置（以下、まん延防止）が解除されたものの、地方圏が中心であったため回復は緩やかであり、財消費は業種によってまちまちであった。百貨店などは前月から改善したものの、スーパーはさえなかった。小売店・娯楽施設の入出は、2月の中旬以降まん延防止が全国で解除された3月下旬にかけて緩やかに持ち直した。こうした動きを受け、外食・旅行・娯楽関連消費は回復したとみている。
- 4月前半の消費について、百貨店売上高は2019年同期比でマイナス幅が3月から小幅に拡大した。新幹線の輸送量も各社まちまちの結果であった。小売店・娯楽施設の入出を見ると、4月以降は足踏み状態にあり、コロナショック前と比べ、1割程度下回る状況が続いている。そのため、4月の消費は足踏みするとみている。

¹ 「METI POS 小売販売額指標 [ミクロ]」（経済産業省）の公表停止に伴い、今回から一部図表を変更。

＜小売関連＞

- ◆【百貨店】 大手 3 社の 3 月の既存店売上高伸び率は新型コロナウイルス感染拡大前である 2019 年同月比で約 1~2 割減。主要都市でのまん延防止等重点措置（以下、まん延防止）の適用が 21 日まで続いたものの、天候要因（大雪）が剥落したことで 2 月からマイナス幅は小幅に縮小。4 月前半は 2019 年同期比で 2 割減程度と各社とも 3 月からマイナス幅が小幅に拡大。
- ◆【アパレル】 3 月のアパレル 3 社の既存店売上高の伸び率は 2 月から回復。まん延防止の解除に加え、春物、初夏物商品が好調。

図表 1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。2022年4月は14日まで。

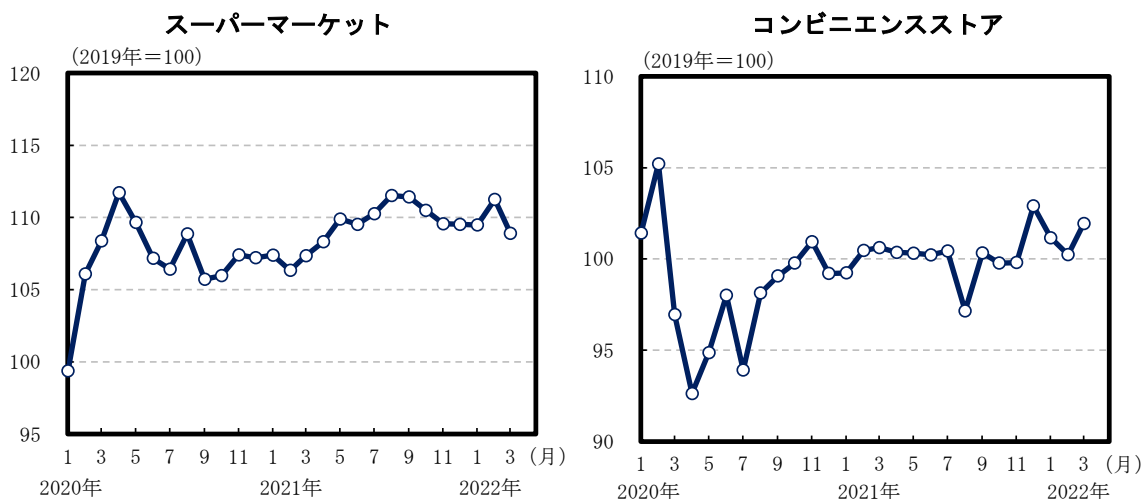
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、2020年10月以降はオンラインストア含む。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパーマーケット】 3月の売上高は前月比▲2.1%（大和総研による季節調整値）。総菜などが増加するも、日配食品や一般食品が減少。
- ◆【コンビニエンスストア】 3月の売上高は前月比+1.7%（大和総研による季節調整値）。サービスや加工食品が全体を押し上げ。

図表 2：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高

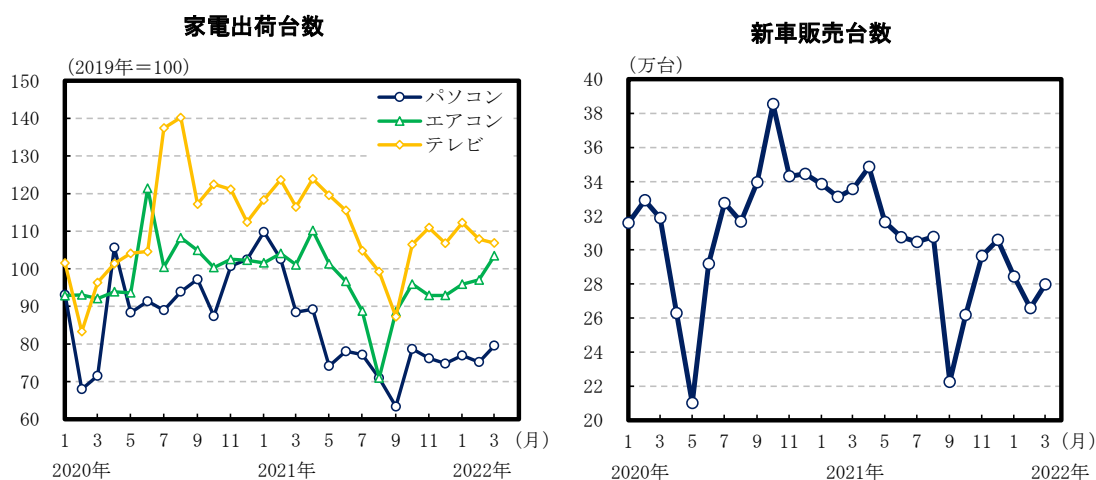


(注) 既存店ベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 全国スーパーマーケット協会、日本フランチャイズチェーン協会、経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】 3月の出荷台数はパソコンが前月比+5.8%、エアコンが同+6.6%、テレビが同▲1.0%（いずれも大和総研による季節調整値）。エアコンは2021年夏の大減少から回復基調が続く一方、パソコン、テレビは横ばい圏で推移。
- ◆【自動車】 3月の新車販売台数は前月比+5.2%（大和総研による季節調整値）と3カ月ぶりに増加。底打ちの兆しが見られるものの、生産調整の影響で回復ペースは鈍い。

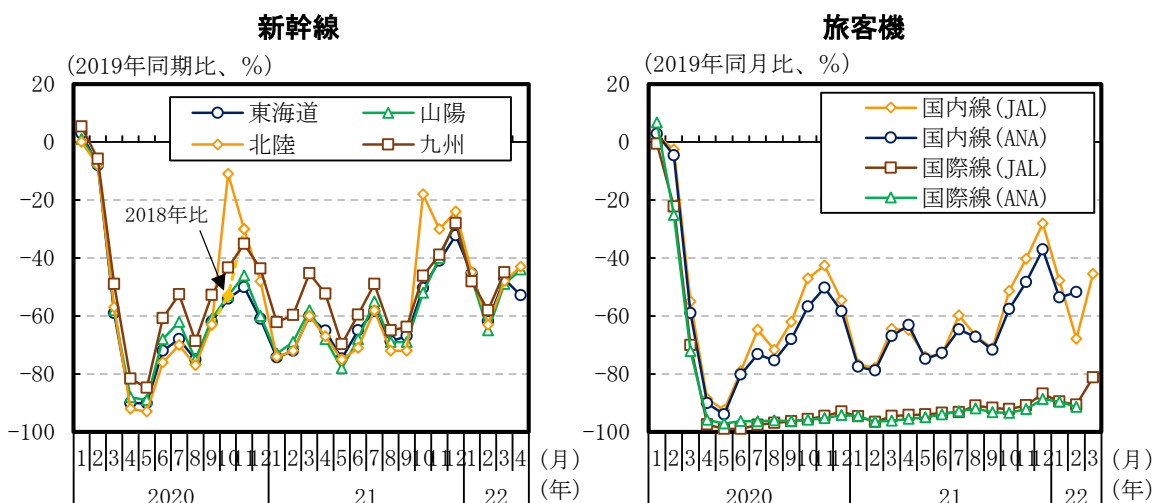
図表3：家電・自動車の売上高



<サービス関連>

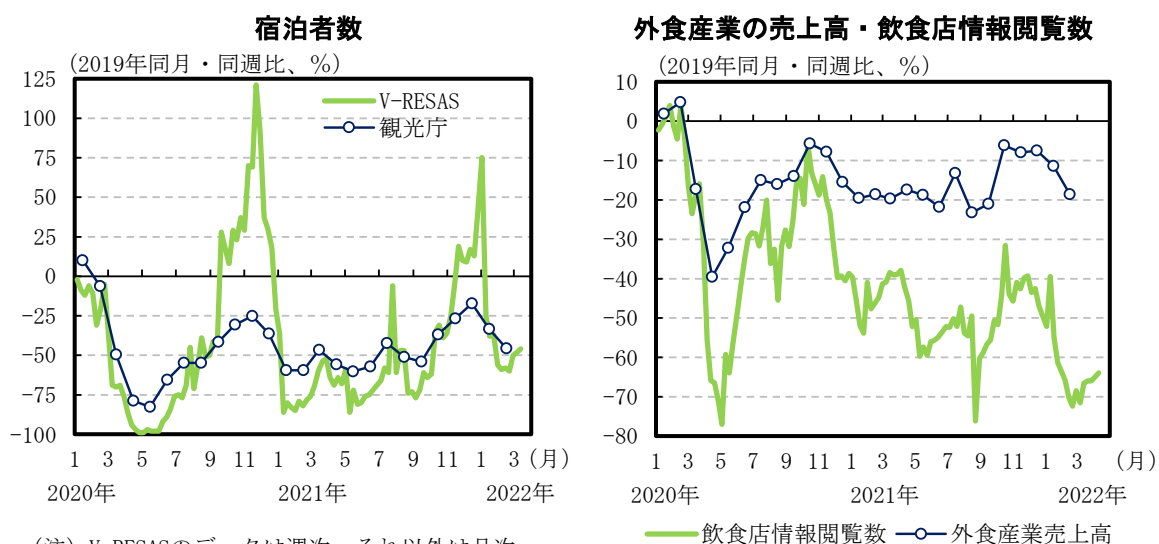
- ◆【新幹線】 4月前半の輸送量は2019年同期比で4~5割減。3月からの方向感はまだまちまち。まん延防止の全面解除で西日本管内は移動需要が持ち直し。東海では小幅に低下。
- ◆【旅客機】 3月の輸送量は、国内線は2019年同月比4割減程度とマイナス幅が大幅に縮小。ゴールデンウィーク中はおおむね計画通りの運航を予定し、それ以降の5月は計画比1割程度の減便と、3月と比べて需要の回復が見込まれる。

図表4：新幹線・旅客機の利用状況



- ◆【宿泊】 2月の宿泊者数（宿泊日数ベース）は2019年同月比▲46%と1月からマイナス幅が拡大。感染拡大の影響が大きい。V-RESAS（宿泊開始日ベース）で見ると、3月前半は緩やかに回復。
- ◆【外食】 2月の外食産業の売上高は2019年同月比▲19%と1月からマイナス幅が拡大。3月の飲食店情報閲覧数は緩やかに持ち直し。ただし、まん延防止の全面解除以降もそのペースは鈍い。

図表5：国内宿泊者数／外食産業の売上高・飲食店情報閲覧数



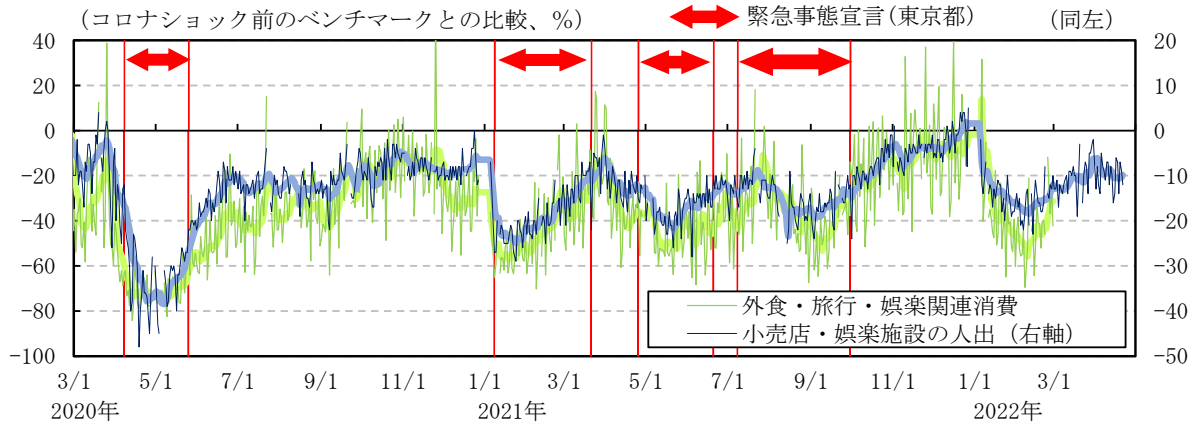
(注) V-RESASのデータは週次、それ以外は月次。

宿泊者数は、観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESASは宿泊開始日ベース。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESASより大和総研作成

<参考：人出・高速道路交通量>

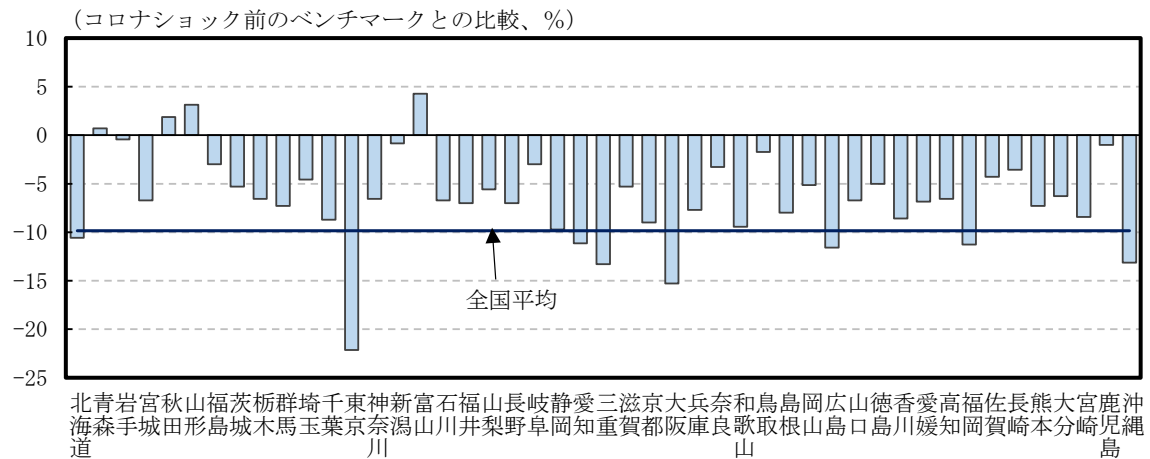
図表 6-1：小売店・娯楽施設の人出（直近値 4/21）と外食・旅行・娯楽関連消費



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。月～金曜日の祝日とお盆、年末年始のデータは除いている。

(出所) 総務省統計、Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

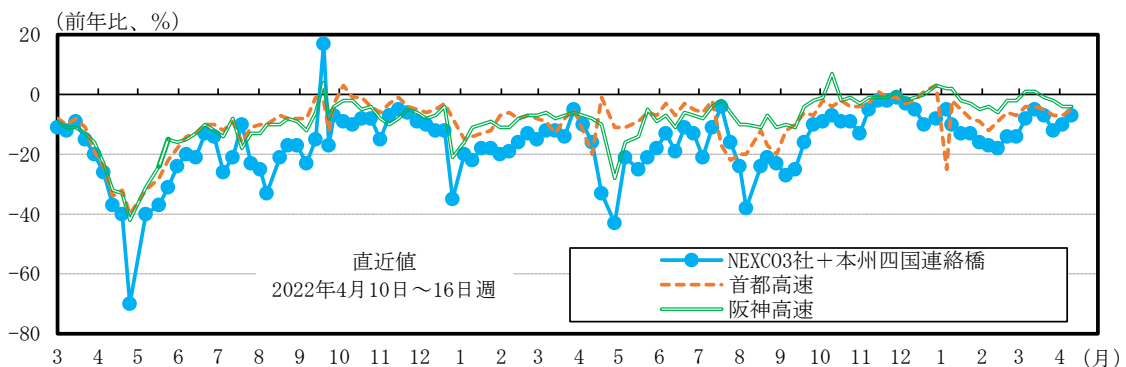
図表 6-2：小売店・娯楽施設の人出（4/15～4/21 平均、都道府県別）



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 7：高速道路交通量

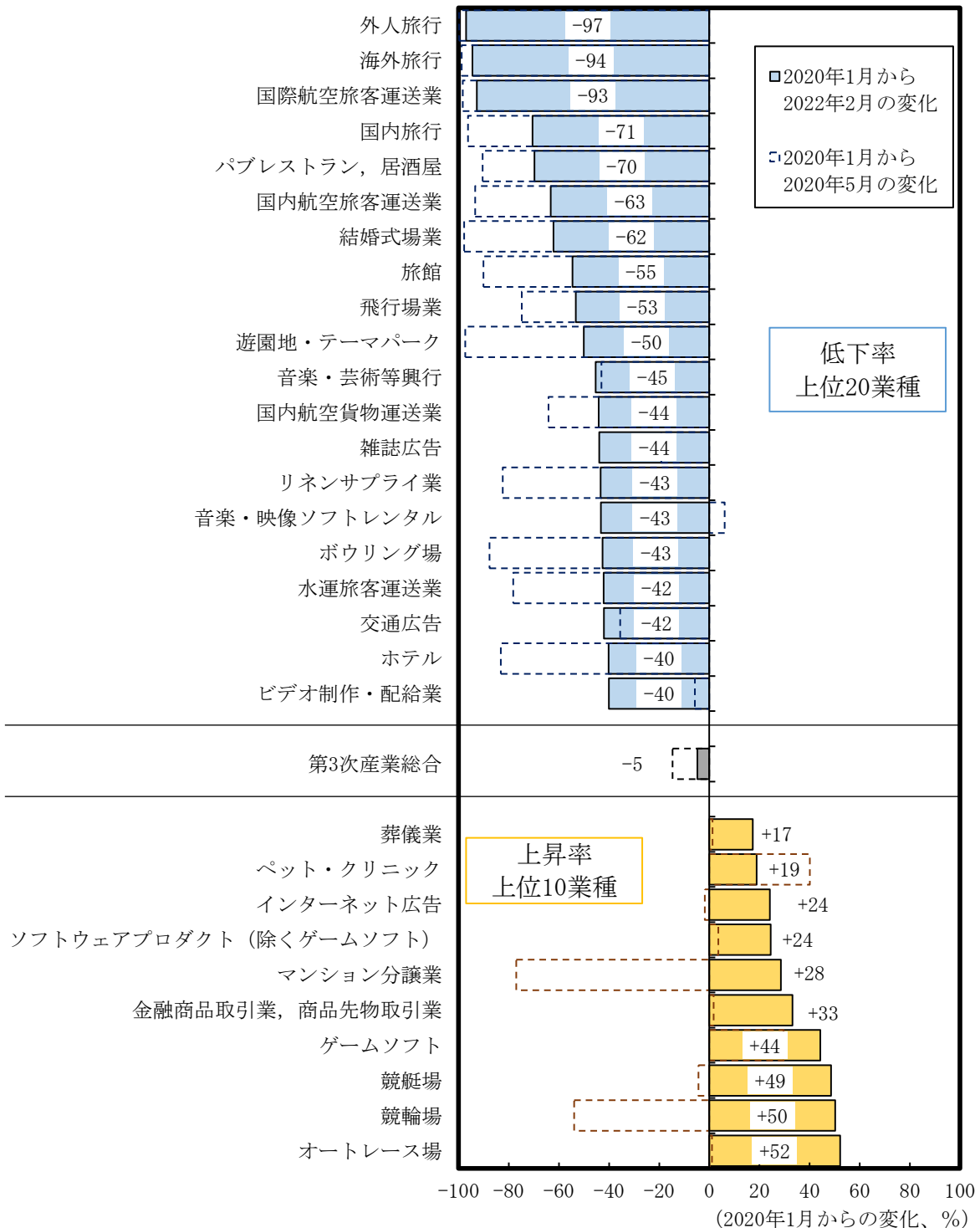


(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成

<参考：第3次産業活動指数>

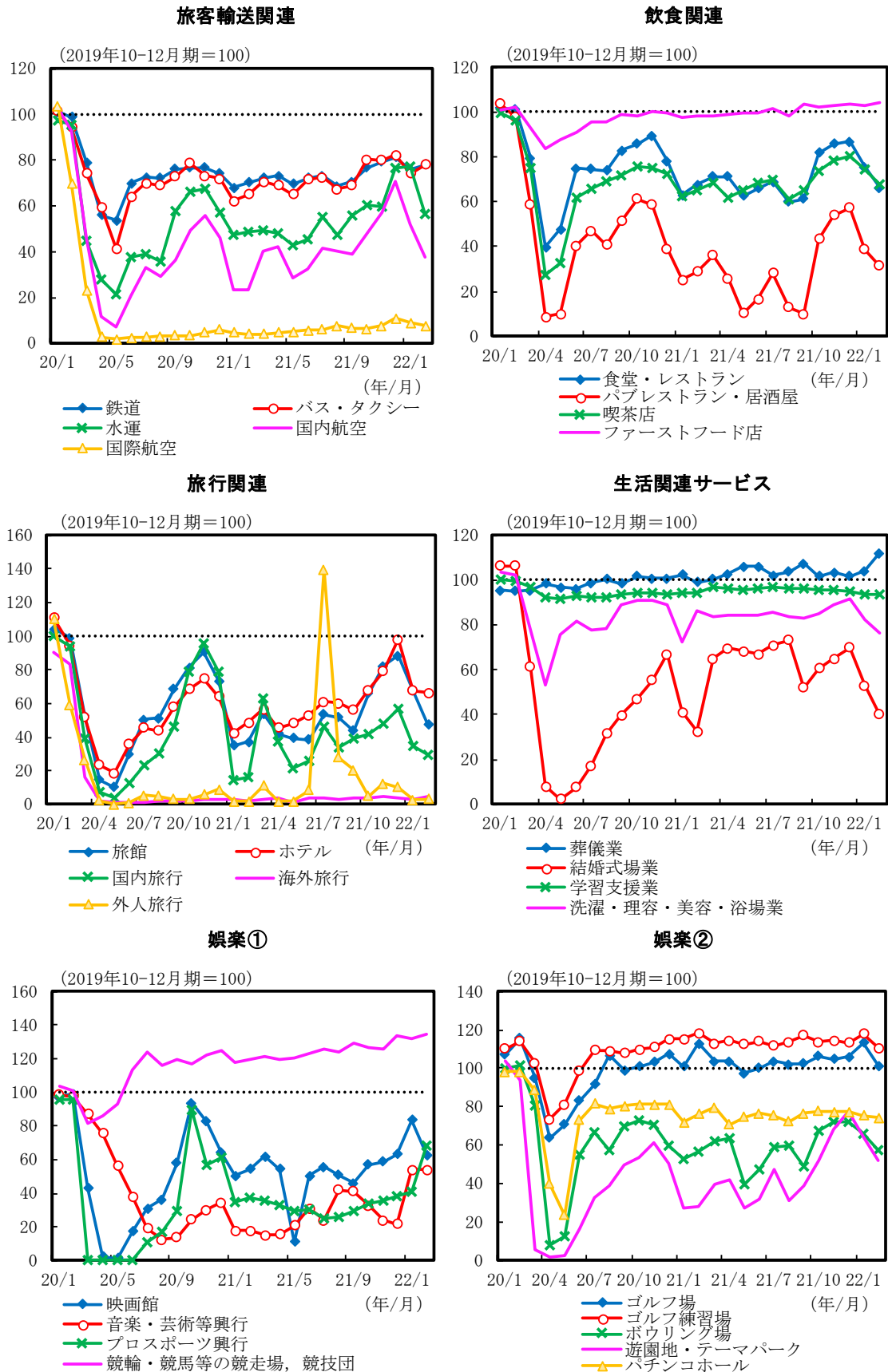
図表 8-1：第3次産業活動指数（2022年2月）



(注) 季節調整値。図中の数値は2020年1月から2022年2月の変化率。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

図表 8-2：運輸業・生活関連サービス業における活動指数の推移



(出所) 経済産業省より大和総研作成